

# 富士協生果樹農園の可能性

どこまで農園事業として伸ばすか、  
ステージ1~5までの段階がある。

## ステージ1

一般的な協生果樹農園モデルとして敷地面積は十分。  
広大な協生果樹園だけでなく、森林を活かした混生果樹農園は  
遊歩道として人を楽しみませることが出来る。広さはどれだけで  
も可能。

## ステージ2

本格的な協生農法・農園モデルとして国内、世界へ発信。

1. 果樹と野菜など農産物の生産モデル
2. 果樹と放牧牛の協生自給モデル
3. 果樹、野菜、養鶏の放し飼い協生自給モデル
4. 森林混生、果樹、野菜、木の实、山菜、有用植物園、遊歩道モデル

## ステージ3

学習施設として学生を受け入れ、農法を世界へ発信する。  
農園は学生による運営で、大半は実習。  
大地の仕組み、自然界の循環、植物、動物とは何かなどの協生理論を  
波及。年齢問わず、入学卒業期間自由、最長2年。

## ステージ4

就農者が2次産業3次産業まで事業として伸ばせる実習施設を設ける。  
2次産業加工は、調理実習室、ジャム、アイスなど、ワインは地元施設に依頼。  
3次産業・集客は、収穫調理体験農園、飲食施設、自然散策、農園散策プログラム  
など。農産物、加工産物直売、飲食施設は休日のみ学校職員と学生で運営。  
散策コース職員、外部スタッフなどで連日でも可。  
農園、学校、就農施設維持費自主運営で賄える。

## ステージ5

簡易滞在施設の配置。  
キャンプ場程度の簡易コテージ、自炊施設、合宿施設など。  
父兄知人の短期滞在、聴講生、短期入学生、合宿、一般利用。  
滞在することで体調復元、リハビリ施設も兼ねる。  
滞在施設維持費はそれで十分賄える。

## 波及効果

ステージ1と2は協生農法の波及。

ステージ3は農業としての波及。

ステージ4は農業としての幅を広げ就農の道を開く。

ステージ5は農法、農業に止まらず、食育、さらに協生理論による体調復元に  
まで幅を広げることで世界が抱える健康問題解消への道を示す。

首都圏に近く、日本を代表する富士の裾野、世界各国の来訪者、非営利事業、  
世界平和の志、スタッフ陣、これほど条件が整った地はこの場所しかない。

by 野人(こと大塚隆)

# Fuji Synecoculture Orchard

